

平成4年 WHEEL HOUSE, CONTROL ROOM

1. 「AIDA」(アイダ) 「船の科学」1992-5 (Vol.45, No.5) より採取。

・3,000 総トン型訓練船「AIDA」 総トン数 3,000T

エジプト・アラブ共和国向の訓練船、海運事業を行う人材の養成のほか、紅海のスエズ運河近傍海域の灯台への物資補給、交代要員の輸送などを行う。

航海速力 14.0 kn, 乗組員 59 名、訓練教官、学生、灯台関係者など特殊乗船者 214 名。

主機関 ディーゼル (MCR 1,500ps, 700 rpm) ×2 台、無線装置は GMDSS 全面採用。

・船主 : United Arab Republic (Egypt)

・建造 : (株)三保造船所

平成4年2月21日 竣工

・1) は本船全景、2) は機関制御室。

1) W67-01 AIDA 本船全景



2) W67-02 AIDA 操舵室



3) W67-03 AIDA 機関制御室



2. 「ヤマト1」 「船の科学」1992-8 (Vol.45, No.8) より採取。

・世界初の超電導電磁推進実験船「ヤマト1」、排水量 185 t, 全長 30.00 m, 幅 10.39 m, 深さ 2.50 m 速力 ab.8 kn、超電導電磁推進装置(6連環内部磁場方式) 2基(電力 ab.3,420 kW, 推力合計 ab.16,000 N(ニュートン)、高速推進、静かな推進方式として期待された。) 定員 10 名、

発電機(主) 2,000 kW×2、(補) 180kw

・船主 : シップ・アンド・オーシャン財団

・建造 : 三菱重工業(株)神戸造船所 平成4年7月3日 竣工

・4) は本船全景、5) は操舵室。

4) W67-04 ヤマト1 本船全景



5) W67-05 ヤマト1 操舵室



3. 「オーシャン・フェニックス」 「船の科学」1992 - 8 (Vol.45, No.8) より採取。

- ・3,000 m³ 型 我が国最大級の低温式液化エチレン運搬船「オーシャン・フェニックス」、中圧シリンドー型タンク2基搭載、エチレンのほか、プロパン、イソブレンなど多量の液化ガス貨物の積載ができる。 DWT 2,858 t、航海速度 ab.13.0 kn、狭隘部の操船、離接岸作業に配慮して、CPP、パウラスターを装備。

- ・船主 : 東洋マリン(株)
第一マリン(株)
- ・建造 : 石川島造船化工機(株)
平成4年5月28日 竣工

- ・6) は本船全景、7) は操舵室、8) は機関制御室。

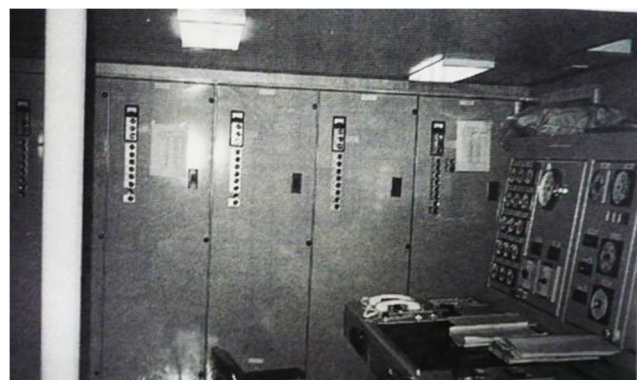
6) W67-06 オーシャン・フェニックス 本船全景



7) W67-07 オーシャン・フェニックス 操舵室



8) W67-08 オーシャン・フェニックス 機関制御室



4. 「CCNI AUSTRAL」 「船の科学」1992 - 9 (Vol.45, No.9) より採取。

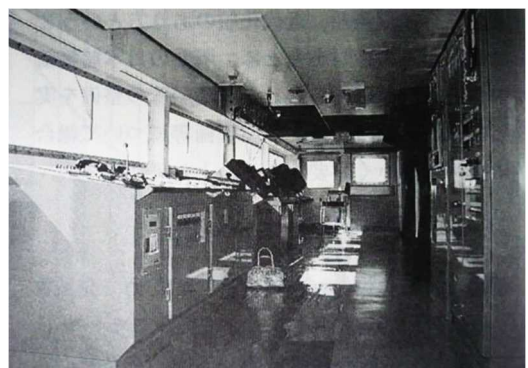
- ・多目的貨物船「CCNI AUSTRAL」、日本～中南米航路を航走、雑貨、コンテナ(1127 TEU)、木材、鋼材、危険物、自動車などを運ぶ。 DWT 22,006 t、航海速度 18.0 kn、無線装置としてはGMDSS 全面採用。

- ・船主 : Austral Shipping Co.,Ltd. (Liberia)
- ・建造 : 内海造船(株)瀬戸田工場 平成4年5月27日 竣工
- ・9) は本船全景、10) は操舵室。

9) W67-09 CCNIAUSTRAL 本船全景



10) W67-10 CCNIAUSTRAL 操舵室



5. 「太古」 「船の科学」1993 - 2 (Vol.46, No.2) より採取。

- ・旅客フェリー「太古」、ワン・ナイト・クルーズ博多～五島列島間を運行、総トン数 1,260 T、航海速度 19.0kn、主機関 中速ディーゼル 3,000 PS ×2、乗組員 21名、旅客 350名、フィン・スタビライザー、CPP 付き、ジョイスティック操縦付。

- ・船主 : 野母商船(株) 船舶整備公団
- ・建造 : (株)白杵造船所 平成4年10月30日 竣工
- ・11) は本船全景、12) は操舵室。

11) W67-11 太古 本船全景



12) W67-12 太古 操舵室



6. 「FOSNA」 「船の科学」1993-4 (Vol.46, No.4) より採取

- ・ 96型ダブルハル・タンカー「FOSNA」
DWT 96,314t、航海速度 14.2 kn
- ・ 船主 : A/S J. Ludwig Mowinckels 社 (Norway)
- ・ 建造 : (株) サノヤス・ヒシノ明昌 水島製作所
平成4年11月12日竣工
- ・ 13) は本船全景、14) は操舵室、視界を重視した操舵室となっている。15) は機関制御室、上甲板に設置されている (荷役制御室の隣)

13) W67-13 FOSNA 本船全景



14) W67-14 FOSNA 操舵室



15) W67-15 FOSNA 機関制御室



(メモ)

- 1) この年の目新しい船としては、超電導電磁推進船「ヤマト1」が挙げられる。
前年に引き続いて、多種の液化ガスを運搬する船 低温式エチレン運搬船、ダブルハル・タンカーなども建造されている。
- 2) 危険物を運ぶ液化ガス船や旅客カーフェリーなど、操船性の向上が要求される船が増えてきたため、それに対応する機器や装置 (CPP, パウラススタ、フィン スタビライザー、ジョイスティック操舵装置など) の採用が増えてきた。
- 3) この年 (1992年) から、無線装置に GMDSS (Global Maritime Distress and Safety System) が本格的に採用された。 (GMDSS は 1992年2月より運用開始、1999年2月より完全適用。)